Museo de Naturales de Geihoku

高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 31 号
2006.7.1
高原の自然館

苅尾（かりお）とは，広島県北広島町芸北にある山の名前です．
一般には臥竜山として知られていますが，地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています．

もくじ

おしらせ

–『苅尾 第 15 号』を発行
–アサギマダラを展示
–水辺の生き物を展示

活動報告

–裏匹見峡の植物観察
–阿佐山の動植物
–水口谷の昆虫と植物
–土嶽の植生調査，夏

観察会案内

–土嶽の植生調査，夏（代替）
–昆虫の灯火採集
–氷河期の生き残り，カワシンジュガイの観察

高原からの花だより

–時を重ね，里の雨に揺れるササユリ

おしらせ

『苅尾 第 15 号』を発行しました

西中国山地自然史研究会の会報『苅尾 第 15 号』を発行しました．会員の方には郵送でお届けします．今回は八幡湿原自然再生事業の特集号です．

アサギマダラを展示しています

芸北ではじめて産卵が確認されたアサギマダラを展示しています．7 月 2 日に蛹になりました．1 ヶ月ほどで羽化すると思われます．

水辺の生き物を展示しています

湿地に産卵するカスミサンショウウオの幼生とモリアオガエルの幼生（オタマジャクシ）を展示しています．

活　動　報　告

裏匹見峡の植物観察

開催日時：2006 年 6 月 10 日（土）9:30
講師：大野勉・和田秀次

集合場所の「道の駅匹見峡」は，八幡からほんの 15 分くらいの場所にできた，新しい道の駅です．とはいえ，和田先生の標高計では ,300m ほども下っているそうです．今日の観察はそんな「中間温帯」と呼ばれる気候帯です．この標高の特徴は，モミが見られることです．さらに，日本海側であり，渓谷沿いということで，芸北とはずいぶん異なる植物が見られました．

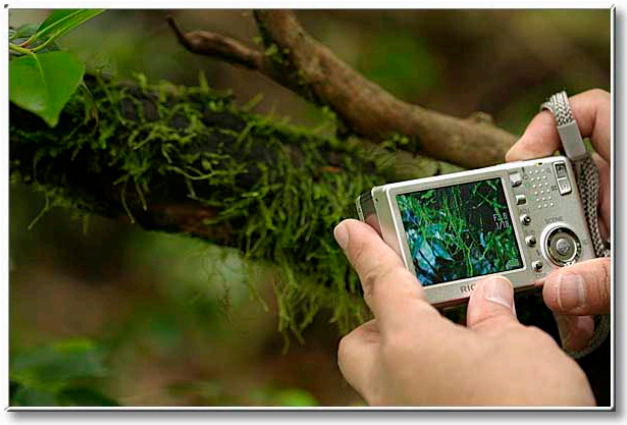
道の駅から車に分乗して 15 分程進むと，裏匹見峡の入り口に付きます．そこから沢沿いに作られた歩道を登りながら観察しました．足下が濡れていたり，一部滑りやすい場所もありましたが，歩きやすく整備されており，所々には植物の名前を書いたラベルが置かれていました．春の植物は多くが種になっていましたが，アジサイの仲間，シライトソウは今が見頃でした．特に樹木の種類が豊富で，二人の先生からは次々に説明が出てきました．途中の広い河原で昼食を取り，帰路は車道を通りました．車道沿いには渓流沿いとは違った植物があったり，樹木を上から見る事ができたりして，こちらも楽しく歩く事ができました．

駐車場に戻って観察したものを確認し ,16:30 ごろの解散になりました．樹木が 64 種類，花や実を付けた草本が 22 種類と，充実した観察会でした .[し]

今日は和田先生と大野先生，二人が講師です．

渓谷沿いを進む．流れの音が心地よいが，まだ少し肌寒い．

並木に使われるケヤキも，本来は渓谷の植物．橋の上から観察．



コケが気になる人もいるようです．渓谷のような湿った場所に特有のサガリゴケの一種．

「ぽとり」と落ちてきたオトシブミ．

途中で国道へと登った．青葉がすばらしい渓谷だった．

みなさんの印象に残ったもの

「初めて見る木，草の多い事」「植物の種類の多さに，ビックリしました．名前を知らない事に驚きました．」「渓谷がとてもよかったです．」「渓谷の湿った環境の植物が多く見られて良かったです」「サワグルミの花，おとしぶみの葉の中に虫がいたこと」「木々の背が，とても高かった，水の流れが清々しかったこと．」「シライトソウ初めて見ました．」「植物（木）の種類が多かった．」「サガリゴケの一種が見られたこと．スミレサイシンって大きくなるんだな．」「ジガバチソウ」「ウワズミサクラに始まりサワグルミで終わる，木の実の不思議さに感銘」「沢登りと違った，植物の観察ができたこと．」「渓谷の植生−高原との違い．」「広島県の人が匹見に来てくれたこと．」

参加したみなさんの感想（抜粋）

「参加者の方の知識が深いこと．木や草以外も詳しい．初参加なのでびっくりした」「自然の中を歩くのはすてきでした．」「あまりきつくない道のりで，観察も詳しくできて楽しかったです．」「ほとんど木の名前を知らないので，次々と名前がわかるのが楽しく思えました．」「川のそばを歩く．気持ちがよかった．」「やっぱり，渓谷って多様な植物があっておもしろいですね．」「森林浴を満喫し，満足．樹種も多々勉強になった．」「1 人 1 人のテーマを決めて参加しては？ただついて歩くのではなく，個人のテーマを持って，最後に発表しては？」「変化が楽しめた．」「大変良い勉強になりました．」「川の音で声が届きにくかった．」「幅広い観察ができることが，楽しいので県境を越えた形があっても良いと思った．」

活　動　報　告

阿佐山の動植物

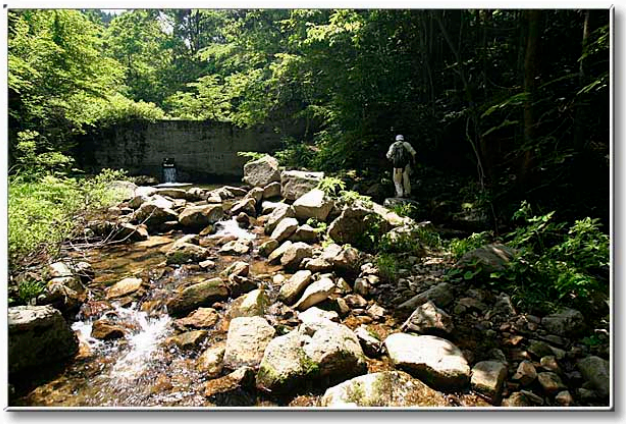
開催日時：2006 年 6 月 18 日（日）9:30
講師：佐久間智子

昨年と同じく，大暮橋からのルートを登りました．今日のテーマはカエデ．佐久間先生はカエデの葉を挟むためのファイルを作って来られ，みなさんに配ってくださいました．

登山道に入る前にもアサノハカエデやマムシグサ，ヤグルマソウなどを見る事ができました．橋を渡り，砂防ダムを超えて登っていくと，二次林から植林へと続きます．古い炭焼き釜の跡もあり，人に使われてきた山だということが分かります．頭の上にはエゴノキやアサガラが咲き，林床にはフタリシズカやツクバネソウが咲いていました．珍しいシダ植物，マンネンスギも見る事ができました．

尾根にたどり着いたところで昼食を取りました．山頂へは行かずに，そのまま降りる予定でしたが「どうしても山頂に行きたい！」という多数の意見があったので，数名は山頂まで往復しました．引き返す時にカエデの確認をするとほとんどの種類が揃っていました．下り道ではギンリョウソウの地下組織を観察しました．地上部も不思議な姿ですが，本体は地下にあります．掘ったギンリョウソウは高原の自然館に標本として置いていますので，見たい方は声をかけてください．下る途中では，オオルリのさえずりがたくさん聞かれ，中にはほんの 6・7m ほどのところまでやってきた個体もいて，しっかりと姿を見る事ができました．

山を下ったところで観察した種を挙げてから解散しました．お天気が良く，絶好の登山日和でした．[し]



沢を渡り，砂防ダムの脇を登る．お天気でよかった．

人が利用していた阿佐山への登山道は，広葉樹も幹が細い．

シダの仲間，マンネンスギもひっそりと生えていた．

下山する前にカエデの復習.

カエデのファイルは，押し葉にすれば使いやすい標本に．これはイイ．佐久間先生，アイデア賞だ.

ギンリョウソウにみんなの視線が集まる.

みなさんの印象に残った物

「オオイタヤメイゲツの見分け方.」「知識の多い方が多く，色々話が聞けてよかった.」「カエデの種類チェック．(2)」「ギンリョウソウの菌根菌．(2)」「カエデの種類が少し分かった.」「イワツバメが橋の下に巣作りしていた．ギンリョウソウの根.」「去年も参加したのですが，めずらしいマンネンスギ，カラスシキミ，ヒョウタンボクに出会えた事.」「マムシグサの雄株と雌株の見分け方．(3)」「モミジ，カエデ類の多さ．(2)」「ハンショウヅルを初めて見た.」「フタリシズカとオオルリ.」「オオナルコユリはホント大きかった.」

参加したみなさんの感想（抜粋）

「色々ある植物の中で，カエデを中心にしたのが良かった.」「マムシグサ，ギンリョウソウなど，名前を知っていてもその中身など知らなかった事が分かった事.」「説明者は皆に聞こえるよう工夫がいる．頂上まで登る意味があったのか？」「ゆっくり歩いてみると，いろんな植物が発見できて，説明もしてもらったので，よく理解できた.」「大変お天気が良く，楽しい登山でした.」「大変有意義で楽しかったです.」「つかれた！！」「カエデ観察の興味がわきました.」「初心者でも気軽に参加できた.」「長かったけどたまにはいいですね.」「カエデの資料はたいへん良かった.」

活　動　報　告

水口谷の昆虫と植物

開催日時：2006 年 6 月 24 日（土）9:30
講師：岩見潤治，和田秀次

夏だ～と叫びたくなるような晴天に恵まれ．自然館前に集合した 20 名の参加者のみなさんも笑顔いっぱいでした．植物専門の和田先生．昆虫専門の岩見先生に本日の日程などをお話ししていただき．「今日はみんなで楽しみましょう！」という岩見先生の一声のもと．足取り軽やかに出発しました．

湿地に着くまでの道々にも．色々な質問や疑問が飛び交っていました．ハルゼミの鳴く声を聞いたり．止まっているチョウの名前を教えて頂いたりもしました．また．イタチハギに群がっているハナアブ・マメコガネ・セイヨウミツバチ・ハナムグリ・コチャバネセセリなどを観察し．特長や習性をお話くださいました.道沿いにはノイバラが咲いており．目を楽しませてくれ．近くではイカルの鳴き声も聞こえてきます．そんな中．八幡で発見されたというヒロシマサナエが次々と現れ．みんなをびっくりさせてくれました．テンのフンから何を食べていたかを導き出したり．マムシグサの生態を聞き．個体をみてオスかメスかを判断したり．ヤマザクラの実を実際に味見したりとフィールドだからこそできる観察を大いに体験できました．

個人的には．和田先生のギャグ大炸裂に笑い．岩見先生のシュレーゲルアオガエルの鳴き真似に感心し．チョウには特定の食草があるということがわかり．ほんの少しだけれどもチョウの種類にも興味をもつことができました．

普段なら咲いているきれいな花だけを見て．通り過ぎてしまいがちですが昆虫・植物など見たものを観察し．名前や生態を先生方そして参加者のみなさんにも教えていただき．それが自分の知っている事柄と何らかの形で繋がっていることが分かる喜びを味わい．ただ単純におもしろい！スゴイ！という感動や興奮を味わえる満足度いっぱい．ついでに汗びっしょりな観察会となりました．[こ]

「はい，これは何でしょう？葉の形は？種をみるともみじです．カラコギカエデです.」

イタチハギの花粉を食べるハナムグリ，コチャバネセセリ・マメコガネなど．「花は虫のレストランです.」

ハンノキ林内.

ヒロシマサマエ発見.

動きがゆっくりでみんなの撮影によく耐えてくれた．みんな順番にカメラにおさめる.

みなさんの印象に残った物

「スイカズラの花，ハルゼミとエゾゼミ.」「ヒロシマサナエ，ハンノキの樹林と湿地.」「先生の話が面白かったです.」「湿原を初めて歩いた事．特有の植物や昆虫を見られた事.」「マムシグサの特徴.」「じっとしたヒロシマサナエ．(7)」「昆虫と草花のかかわりが分かったのが楽しかった.」「シュレーゲルアオガエル，ニホンアカガエル」「マムシグサの花」

参加したみなさんの感想

「いい天気で楽しく観察できました.」「快晴で風がさわやかで大変良い日でした.」「70才を過ぎて初めて見る虫や植物を見る事ができ，多くのものを学びました.」「梅雨の中，よい天気でよかった．ヒロシマサナエを初めて観察できたことが良かった.」「ふだん入らない湿地での観察が良かった．少人数だったので先生の説明がよく聞こえてよかった.」「とてもめずらしく，感動しました.」「昆虫にはあまり興味がなかったのですが，いろいろ教えて頂き，とても良かったです.」「木道が斜めになって，雪が多かったためでしょうか，気になりました.」「昆虫をたくさん教えて頂けてよかったです.」「なごやかでよかったです.」「簡単な資料を提供して頂ければなお良い.」「植物と昆虫のセットがおもしろかったです.」「湿地再生がどのようになるのか，楽しみです．何かお役にたてることができればいいな，と思います.」

活　動　報　告

土嶽の植生調査，夏

開催日時：2006 年 6 月 25 日（日）9:30

前日とはうってかわり，朝から強い雨が降っていたので，これまでの調査結果を報告と，自然再生事業の進行状況について解説をして，自由に意見を交換する会にしました．

はじめに，白川の方から，3 年間続けてきた植生調査の結果について報告しました．『苅尾 第 15 号』に掲載されているように，湿潤な環境になった場所では比較的速やかに湿原生植物の優占度が高くなっていました．一方で，優占度が低くなった陸生植物は，全く居なくなるのではなく，細々と生き続けることが伺えました．その後，野村さんに自然再生事業の全体像について解説していただきました．特に，工法や完成像については様々な意見が出ました．

多くの意見が出て，活発な議論となった反面，論点がまとまらない，という指摘もあり，事務局の準備不足だったと反省しています．できなかった植生調査については，7 月 22 日に行いたいと思いますので，ぜひご参加ください．[し]

野村さんに事業の概要を説明して頂いた．

工法などについて，意見が交わされる．

説明にもつい熱が入った．

みなさんの印象に残った物

「自然を後世に残す事は大変な努力がいる.」「町道の撤去の意見が結構あったこと.」「どういう再生をするのか，工法は本音で話せた.」「湿原再生のあり方が分かりました.」「湿原再生の話ができた事．(2)」「自然を再生させる難しさがよくわかりました．(2)」「山麓庵から雨の風景をながめたこと.」「土木の話がおもしろかった．いろんな技術がありそうだ.」「人に酔って，湿原の再生というものに対して，実に様々な想いをもっているということ.」

参加したみなさんの感想

「町に住んでいる人間のみが討論しているが，地元の方々はどうだろうか.」「流れがつかまえられた.」「再生の最終の姿をある程度描く事も必要だと思う.」「湿原再生は地元の人々ともっともっと共有して行った方が良い.」「想いはいろいろあるが，いかに再生するかを皆が考えているのだという事がわかったことが良かった.」「湿原の価値も大切だということがわかりました.」「再生事業の到達点が難しいんだなぁ.」「議論の柱をもう少し明確にした方が良いと思います.」「いろいろな方の思いが聞けてよかった.」「再生事業に関する簡単な資料があれば良かったです.」「計画，予算と人々の思いとの間で揺れ動いているこの事業が，少しでも良い方向に向かえばと思います.」「雨が降ったが基本が理解できた.」「野村さんの説明が良かった.」「参加者それぞれが意見を出し合うことができる場であったと思う.」

自由記入

「苦痛に感じずに楽しみながら物事を進めていければと思う.」「研究会でも何度かこのような熱心な論議があるとBetter.」「公園化だけは避け，自生した植生に戻せるようにしたい.」「峡，参加した事で今までの経過がよく分かり，勉強になった.」「自然を相手にして人間がやった事を元にもどそうとするのだから，あまり大げさな事でなく，出来る範囲(現計どおり)でやっていけば良いと思う.」「世界的にも価値のあることをしていると思うので，皆になるほどと思わせるような湿原を作っていきたいと思います．永く，保全していくシステムを作っていくために，若い人たち，子供たちにも今からアピールしていく必要があると思う.」「目標とする湿原は過去のものでも「再生」を含め，新しいものをつくっていくのが，この再生事業のような感じがしました．復元がさらに未来につながっていくのですね.」「西中国山地自然史研究会の調査結果等は，自然再生にどのように伝わっているのでしょうか？また，西中国山地自然史研究会と自然再生協議会との関係はどのようにとらえられているのでしょうか？」

※編集注：

西中国山地自然史研究会の調査結果は，学会で発表されたものに関しては，その資料を委員に配布しました．それ以外の資料については，一度報告したことがありますが，本年度新たに委員になった方には伝わっていないはずです．今回発行した『苅尾 第15号』が配布されるので，植生調査と鳥類の調査については周知されるはずです．カスミサンショウウオや昆虫相（ガ）についても同様に公開していく予定です．また，協議会との関係については，西中国山地自然史研究会は1団体委員として参加しています．ただし，西中国山地自然史研究会の会員のうち，13名が個人的に委員として参加しています．協議会は36名の委員によって構成されているので，3分の1以上が西中国山地自然史研究会と関係しています．

観　察　会　案　内

土嶽の植生調査，夏（代替）

開催日時：2006 年 7 月 22 日（土）9:30
集合場所：高原の自然館
準備：汚れても良い服装，長靴，弁当など.
定員数：30 名
参加費：無料

八幡湿原自然再生事業の区域内に設置した実験区で植生調査を行います．2004 年に設置した水路の影響で，実験区では徐々に植生が変化しているようです．この結果は，来年からはじまる工事の計画にも参考にされました．継続して調査していきましょう．いつもよりも，ぐっと植物に近づける機会ですよ．

6 月 25 日に予定していた調査の代替日です．

昆虫の灯火採集

開催日時：2006 年 7 月 22 日（土）18:30
集合場所：高原の自然館
講師：清水健一
準備：長袖の服（虫がやってきます．また，夜に冷え込むことがあります），雨
具，ルーペ，図鑑，メモ，おやつ，虫除け 等
定員数：30 名
参加費：300 円
（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

月明かりの無い夜に，明かりに集まる昆虫を観察します．夕方から観察を開始して 1 時間もすれば，カゲロウやカナブンなど，様々な虫がやってきます．じっくり見ると，ガの仲間がとてもきれいだという事に気づきますよ．子供たちにオススメです．

湿原の観察–八幡湿原と自然再生事業–

開催日時：2006 年 7 月 23 日（日）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：白川勝信ほか
準備：双眼鏡，メモ，おやつ等.
定員数：30 名
参加費：無料

八幡湿原の観察と自然再生事業地の観察を併せて行います．梅雨明けの湿原では，ハンカイソウやビッチュウフウロなど，色とりどりの花が咲きます．そんな「今も残されている八幡湿原」の植物観察を行った後，自然再生事業が行われる再生対象区を観察します．八幡湿原自然再生事業により，対象区がこれからどうなっていくのかが見所です．

氷河期の生き残り，カワシンジュガイの観察

開催日時：2006 年 8 月 5 日（土）9:30
集合場所：芸北文化ホール
講師：内藤順一
準備：水に入れる服装，（あれば）箱眼鏡，双眼鏡，弁当，メモ，おやつ 等
定員数：30 名
参加費：300 円
（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

芸北が世界の分布南限にあたるカワシンジュガイを観察します．カワシンジュガイは，河川の環境だけでなく，アマゴが居ないと繁殖できないうえ，アブラボテの繁殖に重要な役割を果たします．観察会では，これらの関係を整理して，現地で生息状況を観察します．岸からでも観察できますが，箱眼鏡などを使うと，より近くで観察できます．子供にオススメです．

観　察　会　案　内

小鳥の巣箱づくり

開催日時：2006 年 8 月 20 日（日）9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：暮町昌保
準備：作業のできる服装，弁当，メモ，おやつ 等
定員数：30 名
参加費：300 円（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）＋材料代実費

シジュウカラやヤマガラなど，カラ類は，比較的人の近くにも巣をつくります．郵便ポストで巣作りする姿がニュースになったりもします．昨年作成し，八幡にかけられた巣ではヤマガラがたくさんの子を育てていました．あなたの家の前にも巣箱を置いてみませんか？

今後の予定は右のとおりとなっています．参加の申し込みや不明な点などは，事務局の方までお気軽にお問い合わせ下さい．

よろしくおねがいします．

2006 年
- 7 月 22 日　植生調査
- 7 月 22 日　昆虫観察
- 7 月 23 日　湿原の観察 –八幡湿原と自然再生事業–
- 8 月 5 日　カワシンジュガイの観察
- 8 月 20 日　巣箱づくり
- 9 月 18 日　植生調査
- 9 月 24 日　雲月山の植物
- 10 月 8 日　キノコの観察会
- 10 月 9 日　サツキマスの産卵
- 11 月 11 日　冬鳥の観察・紅葉とゴギの産卵
- 11 月 19 日　千町原の草刈り

2007 年
- 1 月 21 日　アニマルトラッキング
- 2 月 18 日　スノートレッキング
- 3 月 11 日　苅尾トレッキング

― インターネット版苅尾電波塔の紹介と購読移行のお願い ―

苅尾電波塔はインターネットを利用した e-mail でも発行されています．印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます．さらに e-mail なら，関連ホームページを見たり，そのまま返事をすることで観察会の申し込みができたり，とっても便利です．パソコンで e-mail をお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます．まずは高原の自然館ホームページをご覧下さい．

高原の自然館ホームページからは，苅尾電波塔（紙版）の pdf ファイルをそのままダウンロードできます．郵送している紙版に比べ，鮮明なカラー写真を見ることができ，ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます．そこで，高原の自然館では紙版（郵送）からインターネット版への購読移行をお願いしています．今後，紙版の郵送が不要な方は，高原の自然館までご連絡ください．みなさまのご協力をお願いいたします．

【高原の自然館】http://shizenkan.info/

高原からの花だより

時を重ね，里の雨に揺れるササユリ

八幡高原の夏は雨に連れられてやってきます．夏至のころには来る日も来る日も太陽が見られない日が続き，ストーブに火が入ることもしばしばあるほどです．

梅雨の湿気に乗って強い香りを放つのがササユリの花です．ラテン語で「日本のユリ」という名前が付いていますが，分布は中部地方より西に限られます．近畿地方よりも北には，花弁に斑点のあるヤマユリが分布しています．ユリの仲間は地下に鱗茎をつくりますが，これがいわゆる「百合根」で，古くから食用にされてきました．ユリの仲間はたくさんの種を作りますが，一粒の種の中には芽を出すのに必要なわずかな栄養しかありません．そのため，芽生えたばかりのササユリは，その年に花を咲かせることはできません．それどころか，最初の花を咲かせるのに十分な栄養が貯まるまでには７年から８年かかると言われています．さらに，まわりが藪になり，暗い環境になると，花を咲かせなくなってしまいます．鱗茎に蓄えた栄養を無駄にしないために，小さな葉を１枚だけ付けて，明るくなるのを待つのです．

民家の軒先で見せて頂いた株には大きな花を６つも付けていましたから，鱗茎はかなり大きくなっているはずです．ササユリは深山ではなく，草刈りがされるような人里に咲く花です．隣に立てられた棒に，草を刈る主の心が見えるような気がしました．

この記事は『広報きたひろしま 17 号』に掲載されたものを転載したものです．

昨夜，近所でホタルを見ました．各地できれいな川の象徴としてホタルを飼育・放流していて，それはそれで河川環境のことを考える機会として良いのですが，ホタルの光にばかり目が行って，大切なものを見落としているのではないかと不安にもなります．きれいな花や珍しい鳥を守るのも大切ですが，一緒に暮らす目立たない生き物も，生態系の大切な構成要素です．そう考えると，人が普通に暮らしていてもホタルの舞う環境をとてもうれしく思えました．

記事に関するお問い合わせ，観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）
〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax：0826-36-2008
http://shizenkan.info/　　staff@shizenkan.info
冬季連絡先：0826-35-0070（芸北文化ホール）